INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO iDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2016年第42週
（10月17日～10月23日）

＊ 2016年10月26日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
http://survey.tokyo-eiken.go.jp/
＊ 今週は感染症豆知識「梅毒が急増している」も掲載しています。

平成28(2016)年10月27日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電　話：03－3363－3213(直通)
ＦＡＸ：03－5332－7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患　報告数（一類～四類）2016年42週

分類	対象疾患	東京都（保健所受理週）					全国(診断週)	
		39週	40週	41週	42週	年累計	42週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	97	63	53	62	2,949	352	19,353
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	中東呼吸器症候群 *2							
	鳥インフルエンザ（H5N1）							
	鳥インフルエンザ（H7N9） *3							
三類	コレラ					1		8
	細菌性赤痢	1		1		34	1	103
	腸管出血性大腸菌感染症	11	3	5	6	406	79	3,147
	腸チフス					17	2	50
	パラチフス				1	7		15
四類	E型肝炎				1	32	6	319
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	2	1	2		60	4	238
	エキノコックス症						1	18
	黄熱							
	オウム病					1		5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							7
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					2		3
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 *4					2		9
	重症熱性血小板減少症候群 *5							50
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							1
	炭疽							
	チクングニア熱					4		12
	つつが虫病						3	101
	デング熱	3	5	1	3	81	7	300
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く）							

*1　病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2　病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3　2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4　2016年2月15日より新たに追加指定された。

*5　病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		39週	40週	41週	42週	年累計	42週	年累計
四類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						13	226
	日本脳炎							8
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症					1		2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1	1	5
	マラリア		1		1	17		44
	野兎病							
	ライム病							7
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症	7	9	4	4	116	22	1,289
	レプトスピラ症		1			7		65
	ロッキー山紅斑熱							
								2016/10/26集計

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核　62件　患者 36件(肺結核 31件、その他の結核 4件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 25件、疑似症 1件、年齢は5歳未満 4件、20代 8件、30代 6件、40代 8件、50代 12件、60代 7件、70代 5件、80代 9件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 61件、フィリピン 1件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症　6件　患者 4件、無症状病原体保有者 2件、血清型・毒素型はO26 VT1 2件、O157 VT1・VT2 2件、O157 VT2 2件、年齢は5歳未満 1件、20代 3件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は経口感染 3件、不明 3件であった。

パラチフス　1件　患者、年齢は10代、推定感染地は国外(渡航先不明)、推定感染経路は経口感染であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎　1件　患者、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

デング熱　3件　患者、病型はデング熱 3件、血清型は2型 1件、不明 2件、年齢は30代 3件、推定感染地はベトナム 2件、インドネシア 1件であった。

マラリア　1件　患者、病型は熱帯熱、年齢は50代、推定感染地はナイジェリアであった。

レジオネラ症　4件　病型は肺炎型 4件、年齢は50代 1件、60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 3件、ウクライナ 1件、推定感染経路は水系感染(温泉) 2件、塵埃感染 1件、その他 1件であった。

全数把握対象疾患　報告数 （五類） 2016年42週

分類	対象疾患	東京都（保健所受理週）					全国(診断週)	
		39週	40週	41週	42週	年累計	42週	年累計
五類（全数届出）	アメーバ赤痢	5	7	2	8	187	13	930
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	2	2	1	3	60	6	232
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	5	5	2	159	17	1,212
	急性脳炎 *1		1	1		80	7	641
	クリプトスポリジウム症					1		13
	クロイツフェルト・ヤコブ病					14	1	144
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1	2		58	3	411
	後天性免疫不全症候群	5	14	6	11	394	18	1,176
	ジアルジア症	2				15		56
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			1		40	3	249
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1		4	1	38
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	4	5	5	271	31	2,040
	水痘（入院例に限る）	1	3	1	1	43	3	245
	先天性風しん症候群							
	梅毒	35	41	28	33	1,387	72	3,597
	播種性クリプトコックス症	1	1		2	15	1	107
	破傷風					4	1	105
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					2	1	46
	風しん	1				15	2	113
	麻しん	2	2	2		22	5	155
	薬剤耐性アシネトバクター感染症					1		32
								2016/10/26集計

*1　ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（ 全数把握対象疾患のコメント・五類 ）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢　8件　病型は腸管 7件、腸管及び腸管外 1件、年齢は20代 1件、30代 1件、40代 2件、50代 2件、60代 2件、推定感染地は国内 7件、インドネシア 1件、推定感染経路は異性間性的接触 2件、経口感染 3件、不明 3件であった。

ウイルス性肝炎　3件　B型 2件、C型 1件、年齢は20代 1件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は性的接触 3件（同性間 1件、異性間 1件、性別不明 1件）、B型肝炎ワクチン接種歴は無し 2件、不明 1件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症　2件　患者 2件、病原菌はクレブシエラ・ニューモニエ 1件、大腸菌 1件、年齢は50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は医療器具関連感染（人口呼吸器） 1件、以前からの保菌 1件、90日以内の海外渡航歴は無し2件であった。60代の患者は死亡が確認された。

後天性免疫不全症候群　11件　AIDS 3件、無症候キャリア 7件、その他 1件、AIDS患者の年齢は20代 1件、30代 1件、60代 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 3件、30代 5件、推定感染地は国内 10件、フィリピン 1件、推定感染経路は同性間性的接触 10件、不明 1件であった。無症候キャリアのうち1件は、第42週報告の無症候梅毒と同一人物であった。

侵襲性肺炎球菌感染症　5件　血清型は検査未実施 5件、年齢は10代 1件、60代 2件、80代 2件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、飛沫・飛沫核感染又はその他 1件、不明 3件、肺炎球菌ワクチン接種歴は接種無し 3件、不明 2件であった。60代のうち1件は死亡が確認された。

水痘（入院例）　1件　検査診断例、年齢は60代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、水痘ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒　33件　患者 25件（早期顕症梅毒Ⅰ期 10件、早期顕症梅毒Ⅱ期 15件）、無症候梅毒 8件、年齢は20代 12件、30代 12件、40代 7件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 33件、推定感染経路は性的接触 33件(同性間 10件、異性間 19件、性別不明 4件)であった。無症候梅毒のうち1件は、第42週報告の後天性免疫不全症候群（無症候キャリア）と同一人物であった。

播種性クリプトコックス症　2件　患者 2件、年齢は60代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路・原因は免疫不全（急性骨髄性白血病） 1件、鳥類の糞などとの接触又は免疫不全（ステロイド内服） 1件であった。80代の患者は死亡が確認された。

定点把握対象疾患　報告数　2016年42週

上段：報告数
下段：定点当たり

定点種別	対象疾患	2016年				報告医療機関数	定点医療機関数
		39週	40週	41週	**42週**		
小児科	RSウイルス感染症	665	723	527	436	261	264
		2.56	2.79	2.03	1.67		
	咽頭結膜熱	68	70	48	62		
		0.26	0.27	0.19	0.24		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	414	399	323	491		
		1.59	1.54	1.25	1.88		
	感染性胃腸炎	1,089	1,170	1,051	1,338		
		4.19	4.52	4.06	5.13		
	水痘	85	96	72	91		
		0.33	0.37	0.28	0.35		
	手足口病	461	498	423	371		
		1.77	1.92	1.63	1.42		
	伝染性紅斑	18	15	19	22		
		0.07	0.06	0.07	0.08		
	突発性発しん	146	157	123	130		
		0.56	0.61	0.47	0.50		
	百日咳		7	4	9		
			0.03	0.02	0.03		
	ヘルパンギーナ	329	438	206	144		
		1.27	1.69	0.80	0.55		
	流行性耳下腺炎	221	215	214	247		
		0.85	0.83	0.83	0.95		
	川崎病 *1	3	7	7	3		
		0.01	0.03	0.03	0.01		
	不明発しん症 *1	31	25	21	19		
		0.12	0.10	0.08	0.07		
インフルエンザ	インフルエンザ *2	63	96	98	117	412	419
		0.15	0.23	0.24	0.28		
眼科	急性出血性結膜炎			2		39	39
				0.05			
	流行性角結膜炎	30	26	23	21		
		0.77	0.67	0.59	0.54		
基幹	細菌性髄膜炎 *3	1	1	3	1	25	25
		0.04	0.04	0.12	0.04		
	無菌性髄膜炎	3	1	4	2		
		0.12	0.04	0.16	0.08		
	マイコプラズマ肺炎	28	53	43	41		
		1.12	2.12	1.72	1.64		
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	2	3	1	1		
		0.08	0.12	0.04	0.04		
	感染性胃腸炎（ロタウイルス） *4		2		1		
			0.08		0.04		
	インフルエンザ入院	1	2		2		
		0.04	0.08		0.08		

2016/10/26集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。
*2 鳥インフルエンザを除く。
*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。
*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

（ 今週の注目される定点把握対象疾患 ）

・**ＲＳウイルス感染症、流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎**の定点当たり報告数は、過去5年平均と比較して高い値で推移している。

定点把握対象疾患　報告数【年齢階級別】2016年42週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	59		1	6		7		2		1	
6～11か月	96	3	1	93	4	54		36		19	
1歳	178	15	21	187	7	153	1	74		55	6
2歳	61	5	34	152	7	57	2	14		27	11
3歳	25	5	44	134	6	26	1	1	2	12	17
4歳	10	8	53	138	8	25	2	2		8	28
5歳	6	3	52	102	14	15	3			7	28
6歳		9	65	82	11	10	3		1	6	31
7歳		2	53	74	10	6	4			1	33
8歳		4	45	57	7	5	2		1	3	29
9歳		4	39	39	8	4	1	1		1	22
10～14歳	1	2	47	109	9	5	2		2	2	37
15～19歳			8	27					1		4
20～29歳		2	28	138		4	1		2	2	1
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	436	62	491	1,338	91	371	22	130	9	144	247
先週比	-91	14	168	287	19	-52	3	7	5	-62	33

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
　　眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月						1	1				
6～11か月		3	1								
1歳	3	6	3		1			3			
2歳		4	4		1			3		1	
3歳		2	9					3			1
4歳			8					3			
5歳		2	13					4			
6歳		1	7				1	2			
7歳			1					4			
8歳			7					4			
9歳		1	3					2			
10～14歳			22		3			8			1
15～19歳			10		2						
20～29歳			3		3			1	1		
30～39歳			4		5			1			
40～49歳			14		4						
50～59歳			2		1			2			
60～69歳			4								
70～79歳			2		1						
80歳以上								1			
合計	3	19	117		21	1	2	41	1	1	2
先週比	-4	-2	19	-2	-2	-2	-2	-2		1	2

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
　　眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患　定点医療機関当たり報告数【保健所別】2016年42週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	0.67		0.67		1.00	1.00					0.33
中央区	2.00		1.33	5.33		3.00		1.33		0.33	0.33
みなと	2.00	0.17	1.33	6.17	0.17	2.17		0.17		0.17	0.67
新宿区	3.13	0.25	2.00	5.88	0.13	0.25		0.25			0.38
文京	0.25	0.50	0.75	2.75	0.25	1.50		0.75			0.25
台東	4.00	1.50	1.50	6.75		0.50		1.25			1.75
墨田区	1.40		0.20	1.20	0.20	0.20	0.20	0.40		0.60	
江東区	1.22	0.67	1.33	11.11	1.00	1.89	0.11	1.00		0.67	0.78
品川区	0.50	0.25	1.00	6.88	0.13	0.75	0.25	0.63		0.13	0.63
目黒区	3.80	0.20	2.00	5.80		3.00	0.20	0.40	0.20	2.00	0.60
大田区	1.00	0.69	3.38	9.69	0.23	2.54	0.08	0.54	0.31	0.69	1.23
世田谷	1.31	0.13	2.00	5.50	0.63	2.50	0.19	0.38		0.56	1.38
渋谷区	0.50			3.00		0.25		0.25			
中野区	1.83		1.17	8.50	0.50	1.33	0.17	0.83		1.83	1.17
杉並	0.64	0.09	0.73	3.00	0.09	0.45		0.45		0.36	0.09
池袋	0.75		0.50	3.00		1.25					
北区	0.14	0.14	0.71	6.43	0.14	0.71		0.71			0.29
荒川区	4.25		1.75	3.50	0.75	2.25		0.50		0.75	1.25
板橋区			0.70	1.80	0.30	0.50		0.30		0.10	0.50
練馬区	0.85		5.00	3.69	0.92	1.62	0.15	0.62	0.08	0.92	0.15
足立	2.62	0.15	1.92	4.92	0.38	0.92	0.15	0.23		0.62	0.62
葛飾区	0.38		1.38	3.88	0.38	1.25	0.13	0.50		0.38	1.38
江戸川	2.08	0.25	2.92	7.92	0.17	1.33	0.08	0.42		0.42	0.33
八王子市	4.00		2.09	7.82	0.45	1.18	0.09	0.55	0.09	0.91	2.91
町田市	0.63	1.63	1.25	7.25	0.25	0.88		0.63		1.13	2.13
西多摩	1.88		1.13	3.50		1.50	0.13	0.13	0.13	0.63	0.63
南多摩	2.44		2.11	4.44	0.33	0.89	0.22	0.56		0.33	0.56
多摩立川	1.77		1.62	3.08	0.31	1.46		0.31		0.31	1.00
多摩府中	1.75	0.10	1.50	3.55	0.30	1.95	0.10	0.50	0.05	0.65	2.55
多摩小平	2.73	0.60	4.07	3.33	0.53	1.93		0.80		0.87	0.60
島しょ											

東京都	1.67	0.24	1.88	5.13	0.35	1.42	0.08	0.50	0.03	0.55	0.95

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田	0.33		0.25					2.00			
中央区			0.40								
みなと									1.00		
新宿区			0.25		0.50			4.00			
文京			0.14		2.00						
台東			0.29								
墨田区			0.13					2.00			
江東区		0.11	0.79								
品川区			0.33								
目黒区		0.20	0.63								
大田区		0.23	0.65								
世田谷		0.19	0.52		1.00		0.50	0.50			1.00
渋谷区			0.14		2.00			6.00			
中野区			0.40		1.00						
杉並		0.18	0.41		2.00			2.50			
池袋					2.00			6.00			
北区			0.09								
荒川区	0.50	0.25									
板橋区			0.06					1.00		1.00	
練馬区		0.08	0.19		1.50						
足立					2.00						
葛飾区			0.15				1.00	2.00			
江戸川			0.25								
八王子市		0.09	0.17					1.00			
町田市			0.15								
西多摩		0.13	0.14			1.00					
南多摩			1.29								
多摩立川		0.08	0.10								
多摩府中			0.25					1.00			
多摩小平		0.27	0.09		1.00			1.00			
島しょ											

東京都	0.01	0.07	0.28		0.54	0.04	0.08	1.64	0.04	0.04	0.08

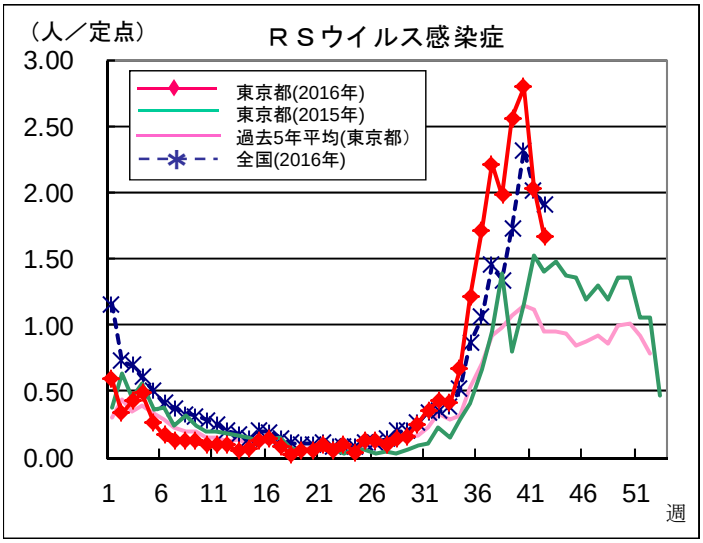
定点把握対象疾患　報告数【保健所別】2016年42週

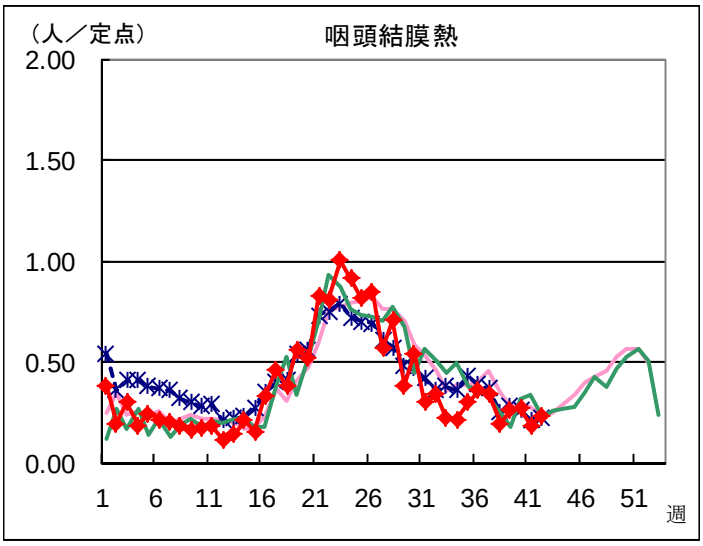
	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	2		2		3	3					1
中央区	6		4	16		9		4		1	1
みなと	12	1	8	37	1	13		1		1	4
新宿区	25	2	16	47	1	2		2			3
文京	1	2	3	11	1	6		3			1
台東	16	6	6	27		2		5			7
墨田区	7		1	6	1	1	1	2		3	
江東区	11	6	12	100	9	17	1	9		6	7
品川区	4	2	8	55	1	6	2	5		1	5
目黒区	19	1	10	29		15	1	2	1	10	3
大田区	13	9	44	126	3	33	1	7	4	9	16
世田谷	21	2	32	88	10	40	3	6		9	22
渋谷区	2			12		1		1			
中野区	11		7	51	3	8	1	5		11	7
杉並	7	1	8	33	1	5		5		4	1
池袋	3		2	12		5					
北区	1	1	5	45	1	5		5			2
荒川区	17		7	14	3	9		2		3	5
板橋区			7	18	3	5		3		1	5
練馬区	11		65	48	12	21	2	8	1	12	2
足立	34	2	25	64	5	12	2	3		8	8
葛飾区	3		11	31	3	10	1	4		3	11
江戸川	25	3	35	95	2	16	1	5		5	4
八王子市	44		23	86	5	13	1	6	1	10	32
町田市	5	13	10	58	2	7		5		9	17
西多摩	15		9	28		12	1	1	1	5	5
南多摩	22		19	40	3	8	2	5		3	5
多摩立川	23		21	40	4	19		4		4	13
多摩府中	35	2	30	71	6	39	2	10	1	13	51
多摩小平	41	9	61	50	8	29		12		13	9
島しょ											
東京都合計	436	62	491	1,338	91	371	22	130	9	144	247

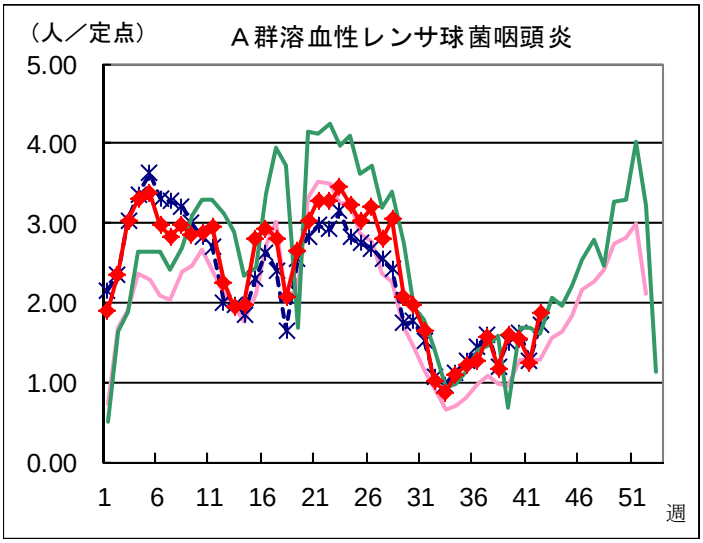
	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田	1		1					4			
中央区			2								
みなと									1		
新宿区			3		1			8			
文京			1		2						
台東			2								
墨田区			1					2			
江東区		1	11								
品川区			4								
目黒区		1	5								
大田区		3	13								
世田谷		3	13		2		1	1			2
渋谷区			1		2			6			
中野区			4		1						
杉並		2	7		2			5			
池袋					2			6			
北区			1								
荒川区	2	1									
板橋区			1					1		1	
練馬区		1	4		3						
足立					4						
葛飾区			2				1	2			
江戸川			4								
八王子市		1	3					1			
町田市			2								
西多摩		1	2			1					
南多摩			18								
多摩立川		1	2								
多摩府中			8					3			
多摩小平		4	2		2			2			
島しょ											
東京都合計	3	19	117		21	1	2	41	1	1	2

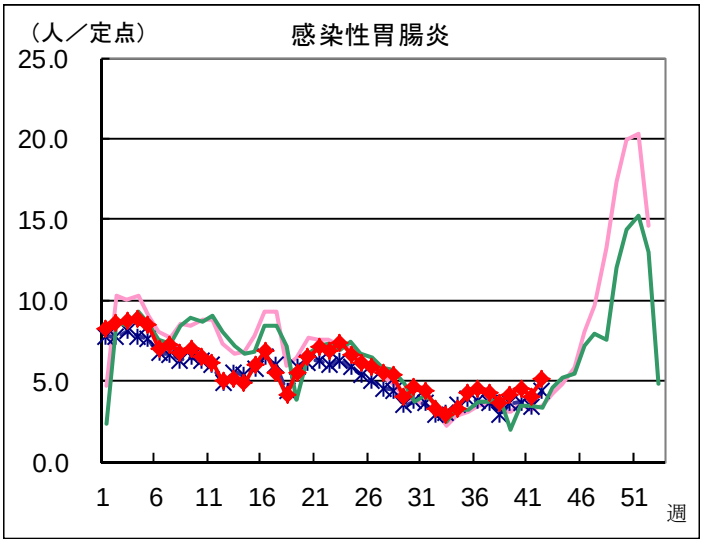
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数（2016年42週 現在）

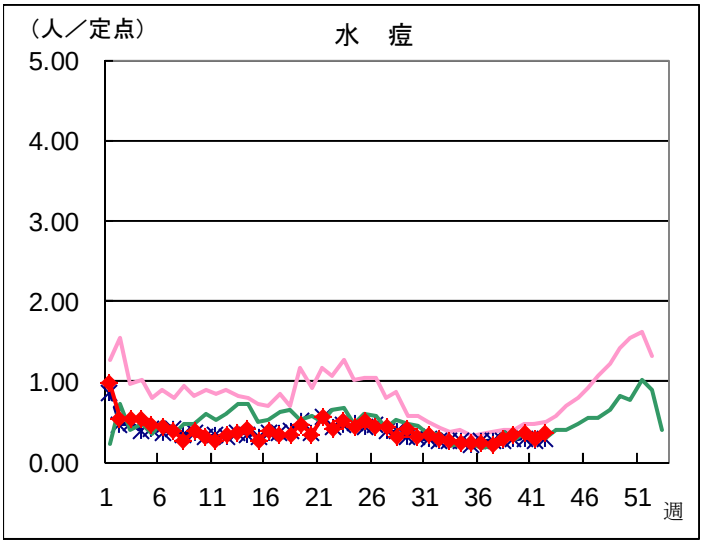
◆ 小児科定点

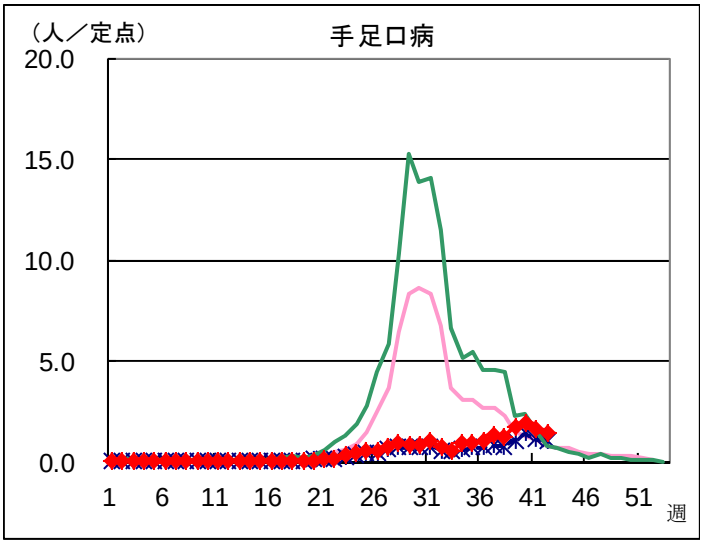


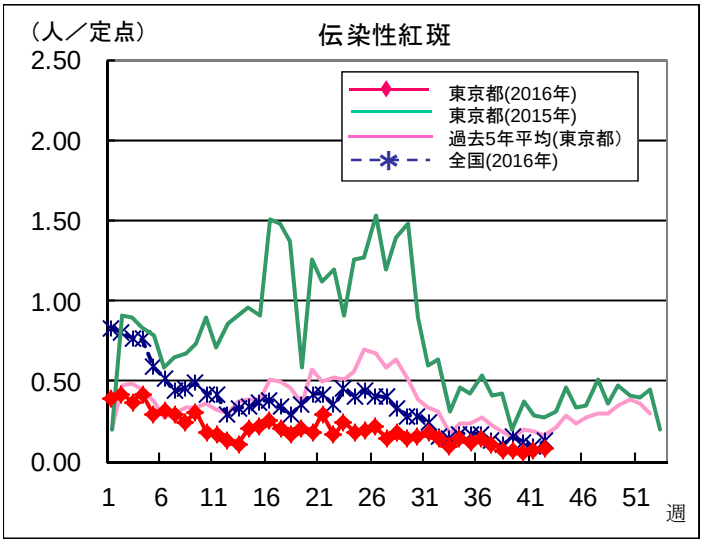


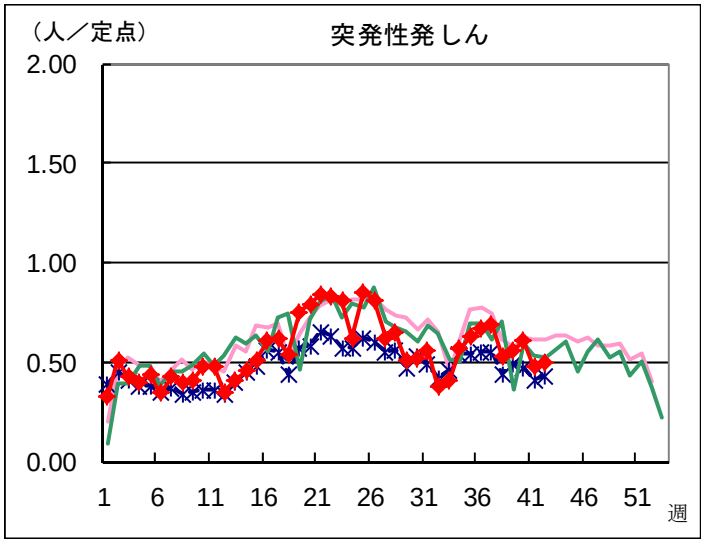


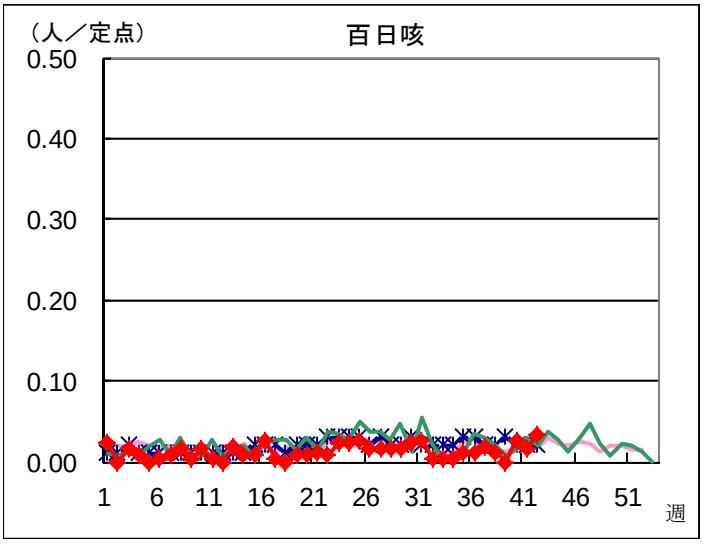


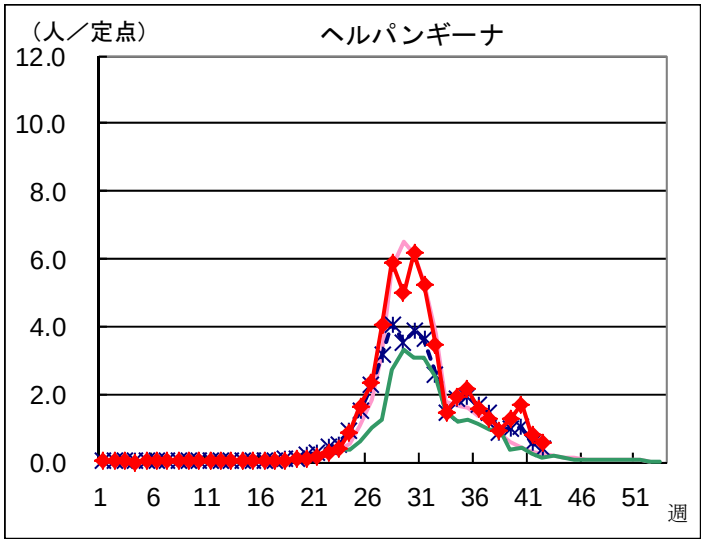


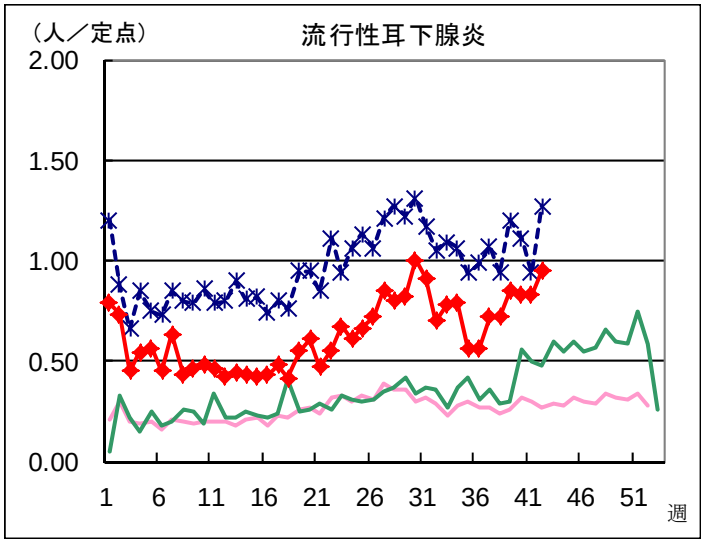


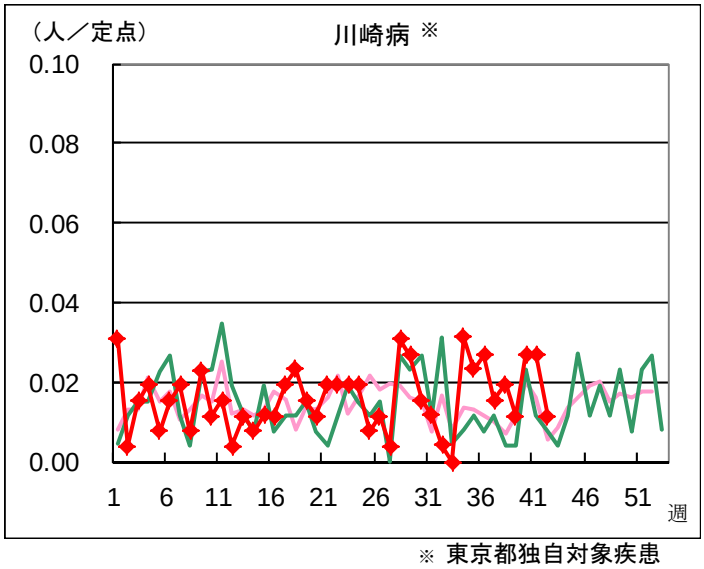

（人／定点）
伝染性紅斑
2.50
2.00
1.50
1.00
0.50
0.00
東京都(2016年)
東京都(2015年)
過去5年平均(東京都)
全国(2016年)
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週


（人／定点）
突発性発しん
2.00
1.50
1.00
0.50
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週

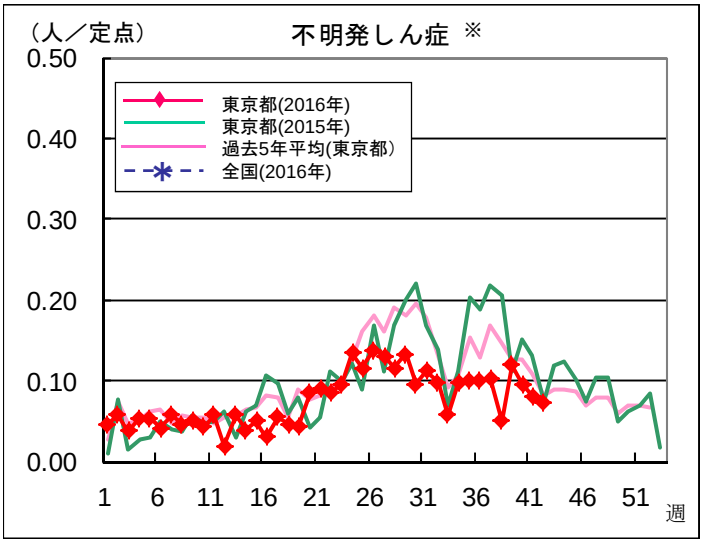

（人／定点）
百日咳
0.50
0.40
0.30
0.20
0.10
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週


（人／定点）
ヘルパンギーナ
12.0
10.0
8.0
6.0
4.0
2.0
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週


（人／定点）
流行性耳下腺炎
2.00
1.50
1.00
0.50
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週

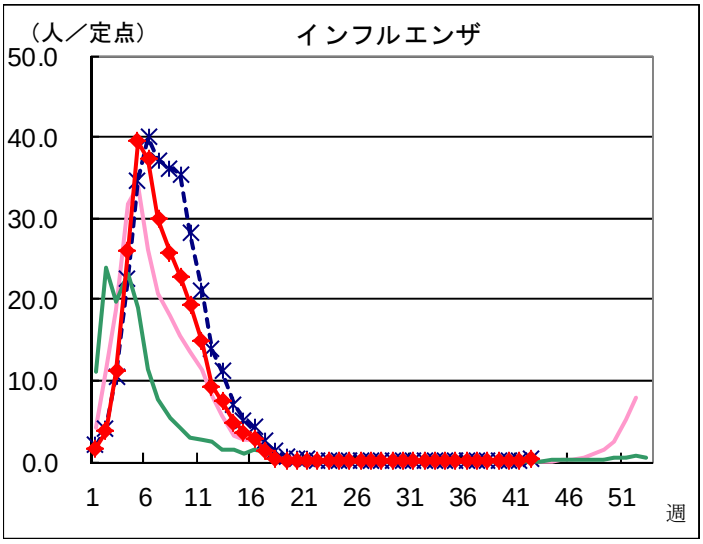

（人／定点）
川崎病 ※
0.10
0.08
0.06
0.04
0.02
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週

※ 東京都独自対象疾患

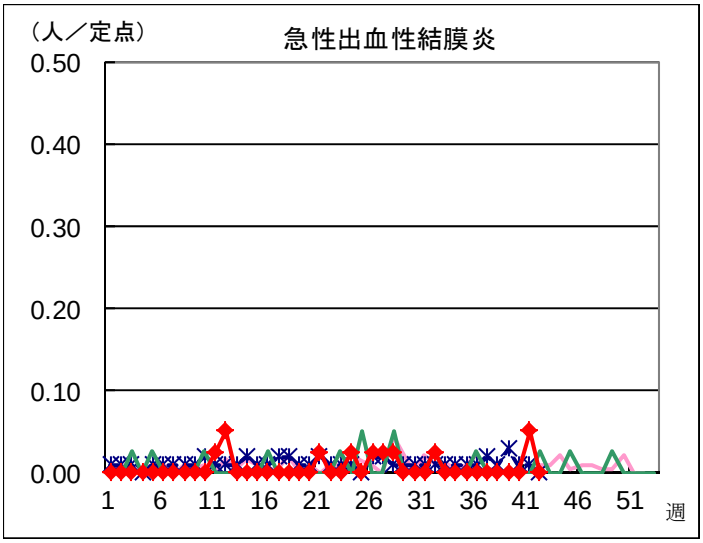


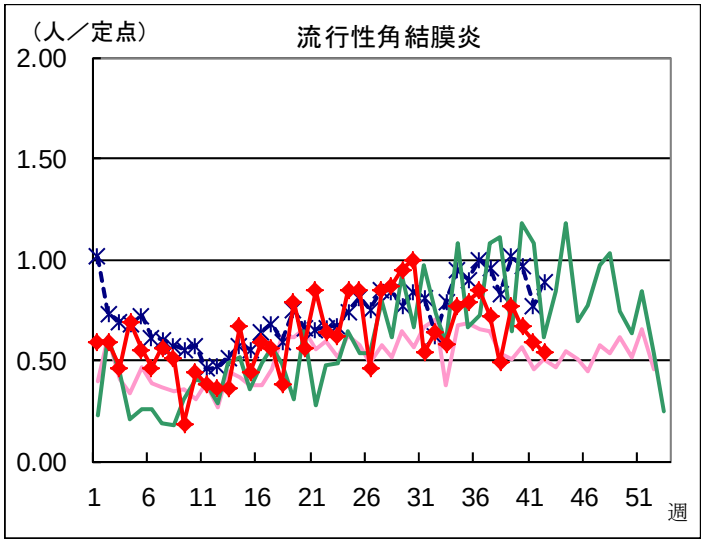
※ 東京都独自対象疾患

◆ インフルエンザ定点

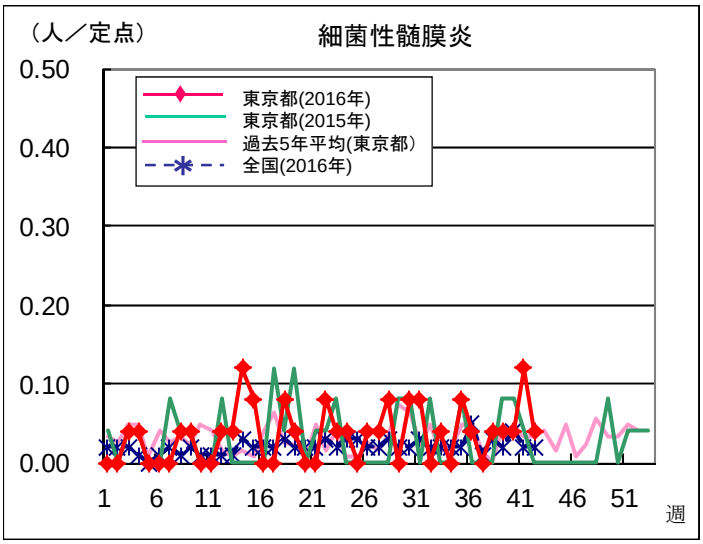


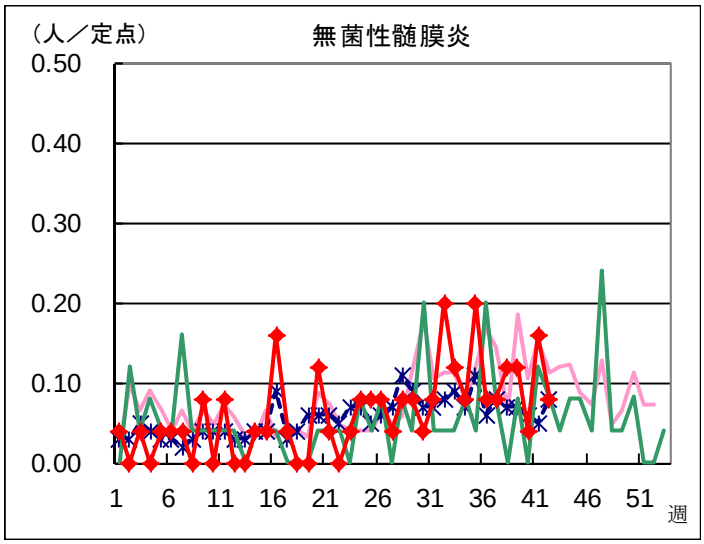
◆ 眼科定点

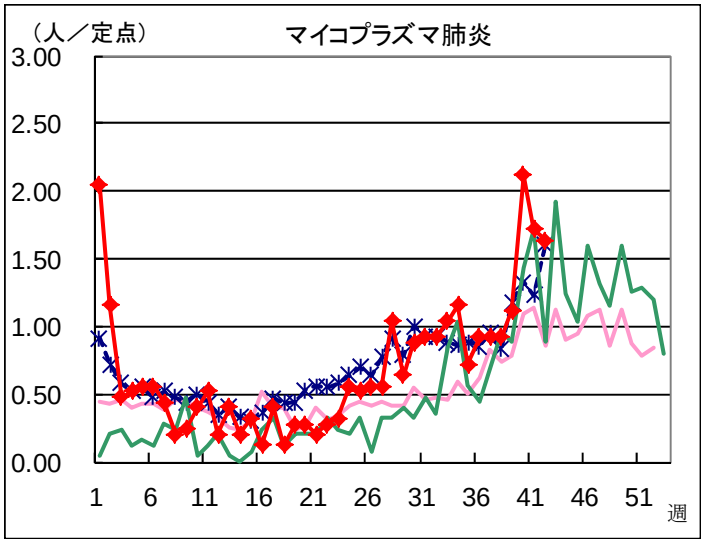


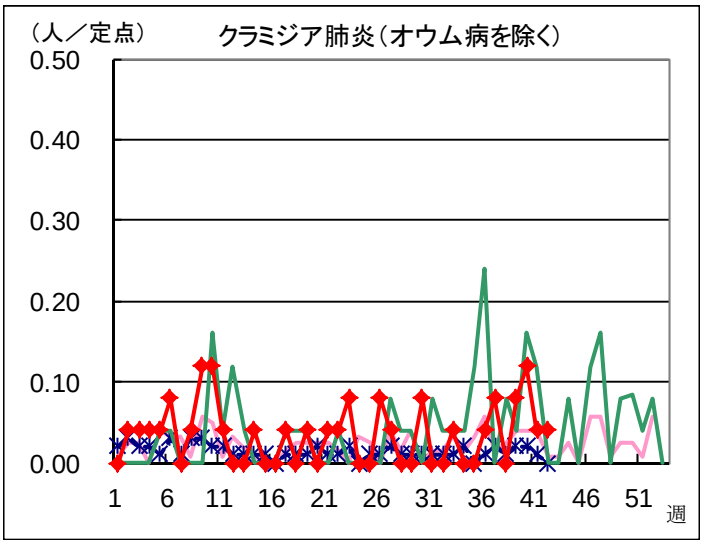


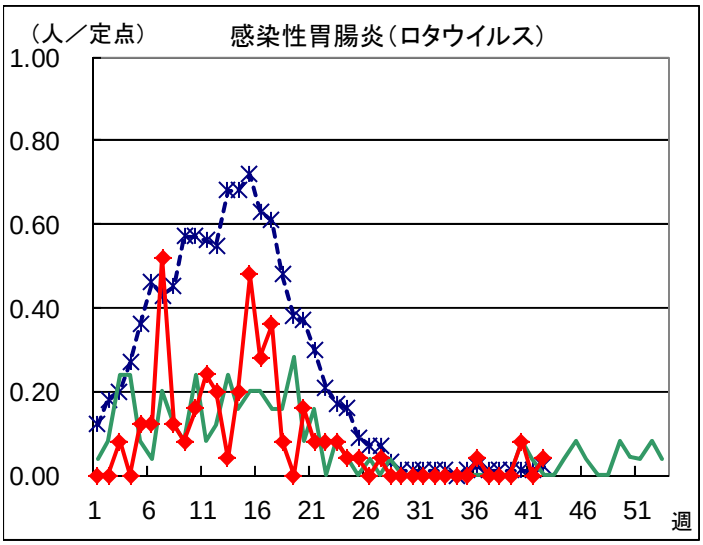
◆ 基幹定点

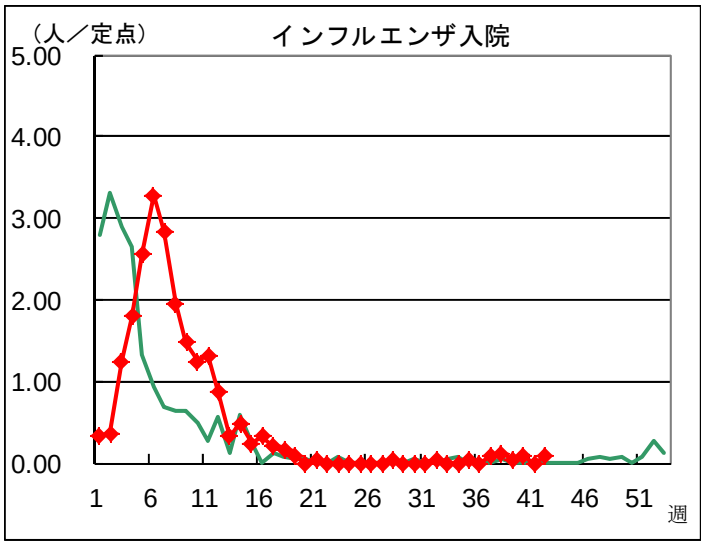

（人／定点）
細菌性髄膜炎
0.50
0.40
0.30
0.20
0.10
0.00
東京都(2016年)
東京都(2015年)
過去5年平均(東京都)
全国(2016年)
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週


（人／定点）
無菌性髄膜炎
0.50
0.40
0.30
0.20
0.10
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週


（人／定点）
マイコプラズマ肺炎
3.00
2.50
2.00
1.50
1.00
0.50
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週


（人／定点）
クラミジア肺炎（オウム病を除く）
0.50
0.40
0.30
0.20
0.10
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週


（人／定点）
感染性胃腸炎（ロタウイルス）
1.00
0.80
0.60
0.40
0.20
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週


（人／定点）
インフルエンザ入院
5.00
4.00
3.00
2.00
1.00
0.00
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
週

定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況（インフルエンザウイルスを除く）

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
9/26	流行性角結膜炎	51	結膜拭い液	アデノウイルス4型
9/28	手足口病	5	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
9/29	突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
9/29	流行性角結膜炎	35	結膜拭い液	アデノウイルス54型
9/30	RSウイルス感染症	2M	咽頭拭い液	RSウイルスB型
10/3	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
10/3	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群5型
10/3	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
10/4	ヘルパンギーナ	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群10型
10/4	手足口病	10M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2016年40週			2	
2016-2017年 シーズン累計*			5	

＊2016-2017年シーズンの開始は第36週（2016年9月5日～）

病原体検出情報 【週別】

検出病原体	2016年							
	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週
アデノウイルス		1		2	1		1	2
コクサッキーウイルスA群	1	2	1	3	3	1	6	5
コクサッキーウイルスB群	2							
エコーウイルス								
エンテロウイルス71							1	
その他のエンテロウイルス			1	1				
ライノウイルス		1			1			
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱しんウイルス		1			1			
ヒトヘルペスウイルス6型・7型			1	1		1	2	1
EBウイルス				2				
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス	1	2	1	3		2	2	1
麻しんウイルス								
麻しんA型（ワクチンタイプ）								
風しんウイルス								
ヒトパルボウイルスB19		1	3					
RSウイルス					3		2	1
ノロウイルス								
ロタウイルス								
サポウイルス								
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	1		1		1	1	1	2
インフルエンザウイルスB型								
インフルエンザウイルスAH1pdm09								
その他のウイルス			2					
A群溶血性レンサ球菌T-1型								
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型								
A群溶血性レンサ球菌T-12型		1		2				
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型						1		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型								
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ	2	1		1				
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2016年33週～2016年40週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	6	3	4	8	2	23	4	7	2	11	17	2	13	9	14		4	5	14	5	
アデノウイルス		2													1		4				
コクサッキーウイルスA群						15				7											
コクサッキーウイルスB群																			2		
エコーウイルス																					
エンテロウイルス71						1															
その他のエンテロウイルス						1									1						
ライノウイルス														1					1		
ヒトメタニューモウイルス																					
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱しんウイルス					2																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								2					4								
EBウイルス											2										
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス											12										
麻しんウイルス																					
麻しんA型(ワクチンタイプ)																					
風しんウイルス																					
ヒトパルボウイルスB19							4														
RSウイルス	6																				
ノロウイルス																					
ロタウイルス																					
サポウイルス																					
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型														7							
インフルエンザウイルスB型																					
インフルエンザウイルスAH1pdm09																					
その他のウイルス																			2		
A群溶血性レンサ球菌T-1型																					
A群溶血性レンサ球菌T-3型																					
A群溶血性レンサ球菌T-4型																					
A群溶血性レンサ球菌T-12型			3																		
A群溶血性レンサ球菌T-25型																					
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			1																		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																					
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																					
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																				4	
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

＜感染症豆知識＞

「梅毒が急増している」

梅毒は、戦後には年間20万人を超える患者がいたほどにありふれた病気だった。ペニシリンの登場によって患者数は激減したが、ここ数年急増している。1999年から2012年は500例から800例で推移してきたが、13年、14年と千件を超え、15年は2,697例で前年比1.6倍となっている。しかも14年以降は若い女性の報告数が増加している。その理由として、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などの普及により出会いが容易になっていることや、口腔性交、肛門性交など多様な性行動によって、男女間の「普通」が大きく変わったためとの声も聞くが、詳細は不明である。

梅毒を引き起こす病原体は梅毒トレポネーマ。感染者との粘膜の接触を伴う性行為や、キスなど性行為に類似した行為によって感染する可能性がある。一般には、皮膚や粘膜の小さな傷から菌が侵入し、血流に乗って全身にさまざまな症状を引き起こす。胎盤を通して胎児に感染したものを先天梅毒、それ以外を後天梅毒と呼んでいる。さらに、何らかの症状が現われた場合を顕症梅毒、症状がなく検査だけで診断されるものを無症候梅毒という。

不特定多数の人との行為でリスクが高まるのは当然だが、無症候梅毒の方との行為では予防が難しい。そのためにも、早期発見のための検査の重要性と併せてコンドームを適正に使用するなどの予防教育、さらには感染の事実が明らかになった場合にはパートナーとともに治療を完了することが必須である。

15年における東京都の届出数1,044件のうち新宿区が431件（41.2%）を占めていることから、新宿区保健所は医療機関への調査を開始した。梅毒診断の有無だけでなく、外国籍、性風俗業の従事歴など、患者の特性を聞いている。このような調査結果によって、最近の梅毒流行の原因が明らかになることを期待したい。

（文責　一般社団法人日本家族計画協会理事長　北村邦夫）